第５５回 IBS セミナー

Institute of Brain Science
Graduate School of Medical Sciences
Nagoya City University

注意の初期発達：外発的から内発的注意へ

講師：中川 敦子 教授
名古屋市立大学 人間文化研究科
人間の成長と発達分野

日時：２０２４年１１月１５日(金) １７：００～
場所：名古屋市立大学桜山キャンパス
医学部研究棟１１階 講義室B

本セミナーはZOOMによるオンライン配信も致します。オンラインでの参加は下記URL又はQRコードからログインしてください。
URL：https://us06web.zoom.us/j/83149864901
ミーティング ID: 831 4986 4901　パスコード: 20241115

私たちはある対象に視線を向けながら別の対象に注意をむけることができる。しかし、生後３か月くらいまでの乳児は、一度視線を捕捉されると、そこから注意を解放することが難しい。注意の解放が能動的に行えるのは月齢4か月前後からである。注意の発達を、近年の脳科学は、覚醒、定位(orienting)、遂行の３つの神経ネットワークから説明し、それらが情動制御にも関わることを示してきた。発達初期の制御機能を担うのは、定位注意であり、その機能は脳の変化に伴って発達していく。我々は極低出生体重児と一般乳児の協力を得て、彼らの顔刺激に対する視線を分析したので、それをもとに注意の発達について考察する。さらに、このような乳児期の定位注意がどのように幼児期の制御機能になっていくのか、エコチル調査の結果についても触れたい。

世話人：山川和弘（医学研究科・神経発達症遺伝学分野）
TEL: 052-851-5612, E-mail: yamakawa@med.nagoya-cu.ac.jp